

アイエックス・ナレッジ株式会社

REPORT

第35期 第2四半期

2012年4月1日～2012年9月30日

株主通信

株主の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。アイエックス・ナレッジ株式会社2012年度第2四半期（連結累計期間）の「株主通信」をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

当期間は、昨年の大震災からわが国経済が立ち直り、さらに本格的な回復が期待されましたが、円高が続いたうえ、中国経済の減速やエレクトロニクス産業の不振などにより企業活動が鈍化し、当期間後半には再び停滞感が広がってまいりました。

こうした環境下、当社グループの顧客も慎重姿勢を崩さず、発注案件の絞り込み・小型化や時期繰り延べなどが目立ちました。当社としては、引き続き採算重視の受注姿勢で臨み、基幹ユーザーへの重点営業を進める一方、新規市場・顧客開拓への取り組みにも力を入れました。

期間業績は別表のとおりですが、現下の状況を勘案しますと当面はこうした環境が続くとみられます。このため、第3・第4四半期においては、一層の顧客開拓により業績の上積みに努め、通期業績で前期よりも大幅改善の水準確保を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、何とぞ変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2012年12月

代表取締役社長

安藤 文男



■ 当第2四半期連結業績／累計

売上高	7,290百万円	前年同期比	3.3%減
営業損失	85百万円	前年同期	103百万円
経常損失	64百万円	前年同期	53百万円
四半期純損失	55百万円	前年同期	37百万円
1株当たり 四半期純損失	4円73銭	前年同期	3円15銭

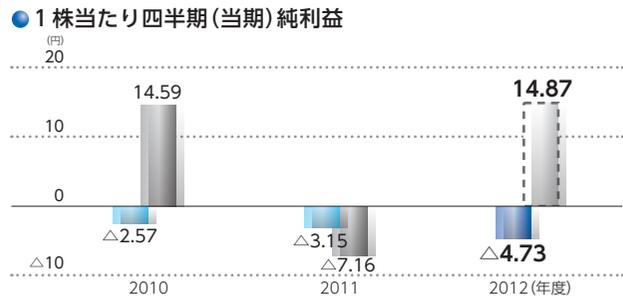
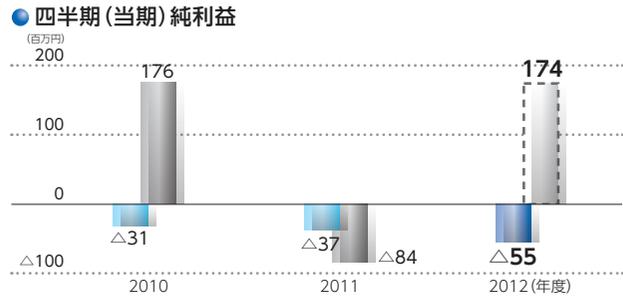
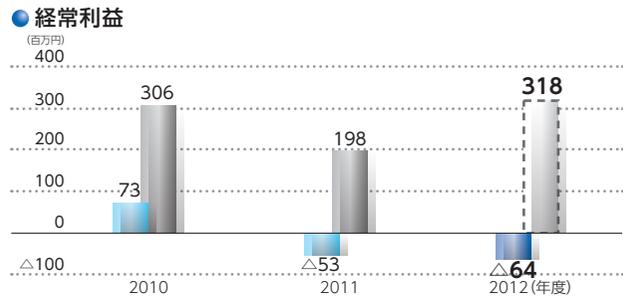
当第2四半期連結累計期間の情報サービス市場は、これまで見送られてきたシステムの更新需要が顕在化し、また、クラウドコンピューティングやアウトソーシングの分野で新たなサービス提供の動きがみられましたが、国内景気の先行きに対する不透明感を反映し、企業の情報化投資は総じて慎重な動きを脱しきれず、市場環境は依然として厳しい状況が続いてまいりました。

こうした中で当社グループは、引き続き採算重視の受注姿勢を維持するとともに、組織力を活かした提案型の営業活動を推進してまいりました。また、生産活動においては、顧客の信頼向上と収益改善に向けて品質管理・リスク管理の徹底を図るとともに、新たな事業拠点である大連愛凱系统集成有限公司(中国・大連市)を中心とする情報システムのオフショア開発を展開してまいりました。

当期間における情報サービス市場は全般に案件の規模縮小や契約期間の短縮化の傾向が強まり、発注単価の引き下げ要請も相次いだことから、当社においても業績面では前年同期に比べ売上高の減少を余儀なくされました。一方損益面では、技術者の稼働率が向上し、外注費の抑制に努めたことから、ほぼ前年同期並みの水準を維持することができました。



## 連結業績の推移



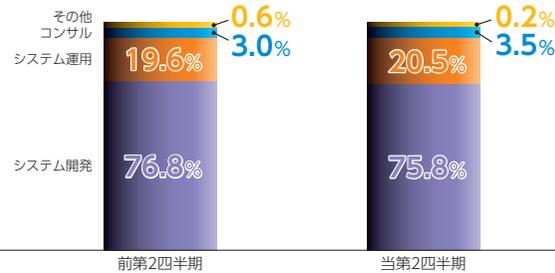
## 連結業績の概要

### 連結損益計算書

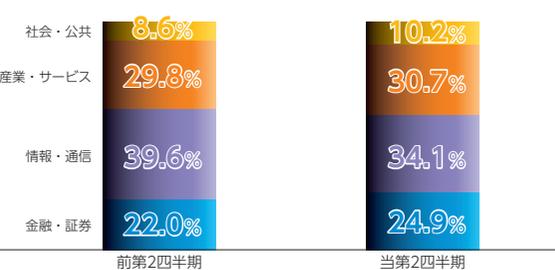
(百万円)

科目	当第2四半期 (2012年度 第2四半期/累計)	前第2四半期 (2011年度 第2四半期/累計)	前期 (2011年度)
売上高	7,290	7,538	15,329
売上原価	6,182	6,439	12,901
売上総利益	1,107	1,099	2,427
販売費及び一般管理費	1,193	1,202	2,289
営業利益又は営業損失(△)	△85	△103	138
営業外収益	28	57	74
営業外費用	6	7	14
経常利益又は経常損失(△)	△64	△53	198
特別利益	2	-	0
特別損失	16	1	68
税金等調整前四半期(当期)純利益 又は純損失(△)	△78	△55	130
法人税等	△22	△17	215
少数株主損益調整前四半期(当期)純損失(△)	△55	△37	△84
少数株主利益	0	0	0
四半期(当期)純損失(△)	△55	△37	△84

### 品目別売上高比率



### 業種別売上高比率



### 2012年度通期連結業績予想

売上高	15,906百万円	前年同期比	3.8%増
営業利益	289百万円	前年同期比	109.6%増
経常利益	318百万円	前年同期比	60.2%増
当期純利益	174百万円	前年同期	△84百万円
1株当たり 当期純利益又は 純損失(△)	14円87銭	前年同期	△7円16銭

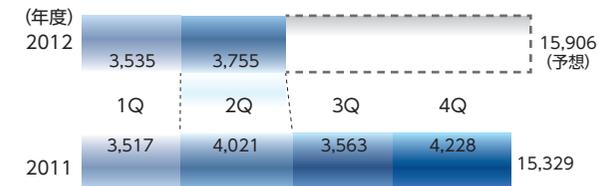
今後のわが国経済は、長期化するデフレや円高さらに欧州債務問題など経営環境の厳しさは続くものと思われます。

このような状況の中、当社グループにおきましては、長年培ってまいりました業務ノウハウとユーザー企業からの信頼を基礎に、経営トップから現場技術者までの多段的営業活動により新規案件の受注獲得に注力してまいります。

2012年度通期の連結業績予想につきましては、売上高15,906百万円（前期比3.8%増）、営業利益289百万円（前期比109.6%増）、経常利益318百万円（前期比60.2%増）、当期純利益174百万円（前期は84百万円の損失）と予想しております。

### ●売上高の四半期推移

(百万円)



当社のホームページでも詳しい情報を同時に開示しております。ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ikic.co.jp/> アイエックス・ナレッジ

2012

4月

ロボット&プログラム体験教室  
(第5回) 港区立芝浦アイランド  
児童高齢者交流プラザで開催

メール取扱訓練サービス『メル  
訓』をクラウドで提供

5月

自己株式取得 (5月から8月まで。  
150,000株取得、総額25,326  
千円)



6月

ソーシャルメディア検索エンジ  
ン『アルカナサーチ』サービス  
開始

「銀行システム部」新設

第34回定時株主総会開催  
(6/21)

8月

ロボット&プログラム体験教室  
(第6回) 世田谷区立芦花小学校  
で3度目の開催

pick up

1

## IKI 社会貢献活動 地域清掃イベントに積極参加

2012年10月14日  
(日)、東京都江戸川区  
の荒川河川敷で行われ  
た清掃イベント「荒川  
でちょっといいこと、  
ゴミ拾い」(ふるさと  
清掃運動会実行委員  
会主催)に、当社はIT  
SPORTS LEAGUE (情報サービス企業十数社によるスポーツリーグ)の  
一員として参加しました。



雨が時折ぱらつく中、河川敷広域  
を参加者約1,000名(当社からは25  
名)が各ブロックに別れて隈なく拾  
い、その結果、1,024袋にも上る大  
量のゴミが集められました。

また当社は、地球環境の保全と  
泳げる海を目指したお台場清掃イ  
ベント「東京ベイ・クリーンア  
ップ大作戦」にも定期的に参加して  
おり、今後もこうしたエコ活動、  
環境への取り組みを、社会貢献の  
一環として積極的に続けてまいり  
たいと考えています。



pick up

2

## 時代のニーズに合わせてインフラ、ミドルウェア、ネットワークを最適コーディネート 基盤システムトータルソリューションサービス

このサービス名の頭に付けた“基盤”は、文字通りシステムの  
インフラ (インフラストラクチャー) に関連させたもので、基盤  
システム構築をコアとして、ミドルウェア導入からネットワーク  
構築、仮想化システムの導入、情報セキュリティ対策、BCP (事  
業継続計画) など、お客さまのさまざまなビジネスシーンに対応  
させたトータルのソリューションサービスです。

お客さまのご要望に合わせ、最新のクラウドコンピューティ  
ング技術を用いて、オンプレミス (自社運用) 型システムとクラ  
ウド型システムの双方の特徴やメリットを的確に活かし、デメリ  
ットは相互で補完させるなど、より効率的・理想的なシステム構  
成をご提案します。これによって、予備系システムへの投資や保  
守にかかるコストを抑えることができ、またBCP (事業継続計  
画) の観点からも最適なディザスタリカバリ (システム障害の回復処

置) を可能にするなど、少ない初期投資で大きな拡張性と高い信  
頼性を持つシステム環境構築が実現できます。

また、東日本大震災の影響から、基盤システムの安全な設置場  
所についてのご相談も多く、システム規模やIT投資予算、立地条  
件などご要望もさまざまですが、これにも各種データセンターと  
連携した細やかなソリューションでお応えしています。

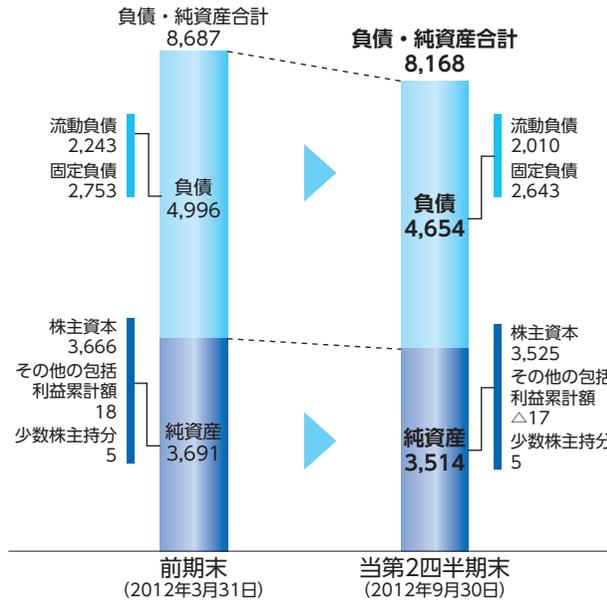
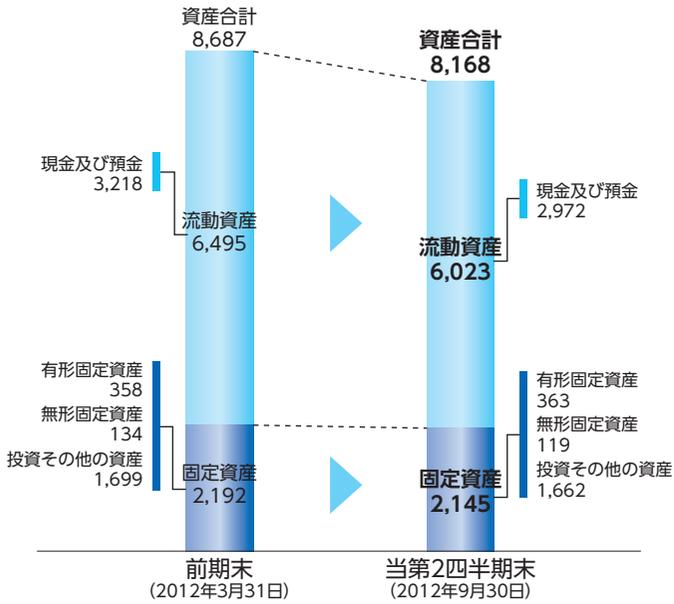
システム規模の大小にかかわらず、個別システムの機能拡張  
や、信頼性向上のための部分改修、ITインフラ全体のリプレイス  
ほか、さまざまなご要件に合わせて、既存システムとの連携や接  
続性を確保しながら、長期的な運用コストにも考慮した柔軟なシ  
ステム設計で、お客さまに“確かな価値”を提供してまいります。



## 連結貸借対照表の概要

● 資産合計 (百万円)

● 負債・純資産合計 (百万円)



## 株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数 50,000,000株  
 発行済株式の総数 13,034,660株  
 株主数 1,894名  
 大株主

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)	
IKI持株会	1,573	13.93	
安藤文男	1,515	13.42	現当社代表取締役社長
安藤多喜夫	1,149	10.18	現当社相談役
(株)三菱東京UFJ銀行	214	1.90	
春日正好	203	1.80	現当社最高顧問
(有)エム・ビ・エス	200	1.77	
三井倉庫(株)	200	1.77	
竹田和平	170	1.51	
住友生命保険相互会社	139	1.23	
亀井慶紀	120	1.06	

※自己株式1,362千株を保有しております。

## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月に開催  
 同総会議決権行使日 3月31日  
 株主確定日 3月31日  
 期末配当金受領日 3月31日  
 株主確定日 3月31日  
 中間配当金受領日 9月30日 (中間配当を行う場合)  
 株主確定日  
 その他の基準日 上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定いたします。

公告掲載URL 当社ホームページ  
<http://www.ikic.co.jp/ir/download.html>  
 に掲載いたします。(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

単元株式数 1,000株  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 (同連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)  
 上場金融商品取引所 大阪証券取引所 (JASDAQ市場スタンダード)

## アイエックス・ナレッジ株式会社

〒108-0022 東京都港区海岸3-22-23  
 TEL.03-6400-7000 (代表) FAX.03-6400-7900

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

当第2四半期 (2012年4月1日～2012年9月30日) (百万円)

